

学校で予防すべき感染症及び出席停止の期間について

第一種(エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)及び特定鳥インフルエンザ(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。以下において同じ))については、「治癒するまで」、出席停止となる。

※感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、第一種感染症とみなす。

| | 病名 | 主症状 | 感染経路 | 潜伏期 | 感染期間 | 出席停止期間 | 備考 | |
|-----------------|---|--|--------------------|-------------------|-----------------------------------|--|--|-----------------------|
| 第二種 | インフルエンザ (特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く) | 高熱(39~40℃) 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感 咳、鼻水、のどの痛み | 飛沫 気接 | 1~2日 | 発病してから 3~4日 | 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで | 肺炎や脳炎などの合併症に注意。発熱や意識の様子に気をつける。 | |
| | 百日咳 | コンコンという短く激しい咳が続く | 飛沫 気道 | 1~2週 | 1~4週間 | 特有の咳が出なくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで | 3歳以下の乳幼児は肺炎を合併することがある。 | |
| | 麻疹 (はしか) | 発熱、鼻汁、目やに、 発疹、くしゃみ | 飛沫 気接 | 10~12日 | 発疹の出る前5日 ~出た後3、4日 | 熱が下がって3日を経過するまで | | |
| | 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 発熱 耳の前下部の腫れと痛み (押すと痛む) | 飛沫 | 2~3週 | 耳下腺の腫れる前 7日~腫れた後9 日間 | 耳下腺、顎下腺又は 舌下腺の膨張が発現 した後5日を経過し、 かつ、全身状態が良好 になるまで | 思春期以後の感染では、睾丸炎、卵巣炎の合併に注意。 | |
| | 風疹 (三日ばしか) | 38℃前後の発熱 発疹 リンパ節の腫れ | 飛沫 気道 | 2~3週 | 発疹の出る前7日 ~出た後7日間 | 発疹が消えるまで | 妊娠初期の感染は奇形児出生率が高い。 | |
| | 水痘 (水ぼうそう) | 発疹→水疱→かさぶた 軽い発熱 | 飛沫 気接 | 2~3週 | 発疹の出る前1日 ~すべての発疹が かさぶたになるまで | すべての発疹がかさぶ たになるまで | | |
| | 咽頭結膜熱 (プール熱) | 38~40℃の発熱 のどの痛み、目やに、 結膜の充血 | 気道 接触 (結膜) | 5~7日 | 発病してから 2~4週間 | 発病してから 2日を経過するまで | 主な症状がなくなって 2日を経過するまで | 医師の許可があるまで、プールには入らない。 |
| | 結核 | 軽い発熱 2週間以上続く咳 全身倦怠感 | 飛沫 | | | | 症状に応じて医師が感 染のおそれがないと判 断するまで | |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | 高熱 皮膚、粘膜における出血斑 関節炎 | 飛沫 | 3~4日 | | | 症状に応じて医師が感 染のおそれがないと判 断するまで | | |
| 第三種 | コレラ | 嘔吐、下痢 | 経口 | 数時間~ 3日 | 発病してから 1~2週間 | | | |
| | 細菌性赤痢 | 38~39℃の発熱 腹痛、下痢 | 経口 | 2~5日 | 発病から数日で回 復期に入る | | | |
| | 腸管出血性大腸菌 感染症(O-157) | 激しい腹痛 水様性の下痢、血便 | 経口 | 4~8日 | | | 溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意。 | |
| | 腸チフス | 発熱、風邪様の症状に続き、 下痢をおこす。 | 経口 | 1~2週間 | 約1ヶ月間 | | 症状に応じて医師が感 染のおそれがないと判 断するまで | |
| | パラチフス | 発熱、嘔吐、腹痛、下痢 | 経口 | 10~20時間 | 約1週間 | | | |
| | 流行性角結膜炎 (はやり目) | 目の異物感、充血、 まぶたの腫れ、目やに、 瞳孔に点状の濁り | 接 触 | 4~10日 | 発病してから 1~2週間 | | 医師の許可があるまで、プールには入らない。 | |
| | 急性出血性結膜炎 (アポロ病) | 目の激しい痛み、 結膜が赤くなる、 異物感、涙が出る | 接 触 | 1~2日 | 発病してから 5~7日間 | | 医師の許可があるまで、プールには入らない。 | |
| | 溶連菌感染症 | 38~39℃の発熱、のどの痛 み、扁桃が赤くはれる、ぶつ ぶつのある赤い舌、発疹 | 飛沫 接 触 | 2~5日 | 潜伏期後半~ 急性期の間 | | 出席停止期間の目安は、有効な治療が開始されてから3日間。(ただし、急性期症状の消失が前提) | |
| | 手足口病 | 軽い発熱(2~3日) 小さな水疱が口の中、 手足にできる | 飛沫 経 接 触 | 3~6日 | のどから1~2週間 便から3~4週間 | | ほとんど軽症であることから、通常は出席停止を行う必要がないが、まれに口腔内の痛みから、摂食不能となり脱水症を起したり、髄膜炎等の合併症を起すことがある。 | |
| | ウイルス性肝炎 | 発熱、おうと、熱が下がった 後の黄疸 | 経口 液 | 4~7週 | 黄疸の起こる 前後1週間 | | 条件によ っては出席停 止の措置 が必要と考 えられる感 染症の例 | |
| | 伝染性紅斑 (リンゴ病) | 両頬に少し盛り上がったジ ンマ疹様の発疹、発熱 | 飛沫 | 17~18日 | 症状出現後は感染 力が弱い | | 感染から17~18日を経て発疹症状を現すが、このころには感染の可能性は低い ため、通常は出席停止を行わない。 | |
| | ヘルパンギーナ | 39℃前後の発熱 のどに小さな水疱ができ痛む | 飛沫 経 口 | 2~7日 | | | | |
| | マイコプラズマ肺炎 | 発熱、激しい咳 | 飛沫 | 2~3週 | | | | |
| | 流行性嘔吐下痢症 (感染性胃腸炎) | 下痢、腹痛、嘔吐、発熱 | 経口 | 1~3日 | | | | |
| | 伝染性膿痂疹 (とびひ) | 顔や手に米粒から豆大の水 疱ができ、破れて膿がでる かゆみ | 接 触 (水疱の分泌物) | 2~10日 | 水疱から膿の出る 間 | | 通常出席 停止の措 置は必要で ないと考 えられる感 染症の例 | |
| 伝染性軟属腫 (水いぼ) | 1~5mm大の白色調のイボ ができ、大きいものは真ん中 に小さくほみがある | 接 触 | | | | プールの入水は、化膿したり、悪化していない場合は、通常許可してよい。ただし、タオル、衣服等を介して感染しないよう気をつける。 | | |
| アタマジラミ | 頭皮の湿疹や、はげしいか ゆみ | 接 触 | | シラミと卵がいなくな るまで | | 発見した場合、学校薬剤師の指示のもと、早期駆除を行う。 | | |